

1 月号
VOL. 468

土會奈良



SHIKAI

2013 NARA

表紙のことば

梅芳庵（桶谷邸）



東吉野村小川、鷺家川の河畔に建つ茶室です。林業家だった当主の父が、自山の材料を使い広間と共に3年掛かりで、母の為に建てられたお茶室です。大門を入ると目の前に、広い柔かな庭の奥に、梅芳庵が見えます。奥玄関の前を露地伝いに進むと待合です。川のせせらぎが聴こえてきます。

お茶室は4畳半、2畳、立礼席からなります。本席の床の間の床柱には変木（木の根）を使い、上部は二股になっており、床柱の隠れる様に丸みのある棧に和紙を張った灯り取りが作られています。立礼席と共有の灯り取りです。点前座と水屋の間に道具を出し入れ出来る洞庫が作られています。

立礼席には躍り口横の軒下を廻ります。入口は身体を少し斜めにして入る様に細長の板戸となっています。正面には灯り取りがあります。本席の灯り取りと趣きのちがう縦棧使いになっております。床は市松模様の板張りです。客机には、法隆寺の古材が使われ、6～7名はゆったりと座る事が出来ます。水屋には、一段上がっていきます。右手奥には小間（2畳）が川の上に張り出して作られています。三方が窓で明るく、天井は垂木や、小舞が放射状に組まれており、まるで屋外の大傘の下で景色を眺めている様な赴きがあります。

現在は、当主により「ゲストハウス蓬桜」を運営されています。一日に1～2組（10名程度）の宿泊、食事、温泉（炭酸）の入浴ができます。浴室の壁の虎目石は見応えがあります。一年間の内、真冬、夏以外は庭のどこかで桜の花が咲いているそうです。

新しい年を迎え、皆様にとって良き年となります様にお祈り致します。（記・女性委員会 梶谷治美）

情報・広報委員会

委員長 福西 保夫

副委員長 田上 圭吾 松尾 憲治

委員 乾井 哲 岩城由里子

鵜山 治 折目 貴司

小松原寛俊 崎山 泰正

辻 元二 福本 保治

宮浦 重彦 森馬 康之

Contents

001

「新年のご挨拶」

003

年賀広告

「参加会」

004

年賀広告

「役員有志」

005

「第32回近畿建築祭奈良大会レポート」

007

「第15回奈良県景観調和デザイン賞
受賞作品決定」

009

「地域型住宅ブランド化事業」

011

「なら・まちづくりコンシェルジュ」

013

「近畿あーきてくと2013
地域実践活動発表会」

015

「最新金物情報勉強会」

お知らせ

「一級・二級・木造定期講習について」
他



新年のご挨拶



年 頭 所 感

(社)奈良県建築士会

会 長 福 本 良 平

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

多党乱立による師走の総選挙は、消費税増税や社会保障といったくらし、脱原発を含めた復興、デフレ脱却等の景気、TPP等の外交、そして地方分権等の国内問題等さまざまな問題に対しいかなる政策等をもってこの国を進めていくのかを決めるものでした。今生まれた政権がグローバル社会の中で日本を正しい方向へと導いてくれることを期待しています。

昨年12月1日に実施された近畿建築祭奈良大会には会員多数の御支援をいただき無事終了することができました。今度の大会は、近畿ブロックの会員の皆さんに飛鳥藤原京を中心に記紀万葉の地を訪れて仏像や建造物をみるととも

に、歌(万葉集)がよまれた風土に触れて、日本の美学を学んでいただくことが意図するところでした。

ところで我々は何故古き良きものにあこがれるのでしょうか。「無名の質」この言葉は、建築家クリストファー・アレクサンダーが『時を超えた建設の道』の中で述べた考え方で、人に感動を与える歴史的建造物と、人に感動を与えない近代の建造物や都市との間にどのような違いがあるのかを追求する中で、その違いは、一言では片付けることができない知覚や経験の「質」によるものだという考えになり、そのいい表せない質を「無名の質」とよびました。奈良県に多数存在するこの無名の質を有する社寺仏閣等の価値を我々は改めて認識し、まちづくりに生かしていく必要があると思います。

一方第15回景観調和デザイン賞にも大変御尽力いただきました。3月9日にはその報告会が、今回が最終となる奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会とあわせて奈良県産業会館で開かれます。多くの会員の皆さんの御参加をお待ちしています。

又、4月からは一般社団法人として活動がスタートします。本部、支部一体となってより活性化された建築士会となるよう会員の皆さんの御支援御協力をお願い致します。



平成25年

新年ごあいさつ

奈良県知事

荒 井 正 吾

奈良県建築士会会員の皆さま、明けましておめでとうございます。

新しい年が、皆様にとりまして幸多き年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

私は、就任以来、これまで数多くの課題に、全力を尽くして取り組んでまいりました。今後も「上司は県民」との意識を持ち効率的な行政運営と県民ニーズを踏まえた施策の実現に努め、奈良をもっとよくするために全力を挙げていきたいと思っています。

今年も「県政の目指す姿」である「地域の自立を図り、くらしやすい奈良を創る」の実現のために、「紀伊半島大水害からの復旧・復興」、「経済活性化」、「くらしの向上」を柱として、直面する県政課題の解決に向けた取り組みを進めていくために、次のような政策課題に重点的に取り組んでいきます。

まず、紀伊半島大水害からの復旧・復興ですが、普段の生活

を一日も早く取り戻すために、被災箇所の早期復旧に努めております。昨年8月末現在で、170世帯346名の方々が避難されていましたが、11月1日に五條市宇井、清水、閉君の3地区で避難勧告が解除されたことなどにより、139世帯288名に減少、平成26年3月までには、その八割以上が帰宅できる見込みです。百年の計に立ち「災害に強く、希望の持てる」地域を目指して、地域の方々が将来にわたり安全に安心して住み続けることのできる地域にするために、引き続き全力を挙げて取り組んでまいりたいと考えています。

次に、地域産業・雇用の分野では、「奈良で暮らし、奈良で働く」ことができる地域づくりを目指し、県では雇用の場を新たに増やす方策として、企業誘致や起業支援、新産業の創出のための取り組みに力を注ぎ、雇用創出につなげていきます。

医療の充実については、北和及び中南和地域における高度医療拠点病院として新県立奈良病院・県立医科大学附属病院中央手術棟の整備、南和地域の医療体制の充実のための公立三病院の体制の再構築などの取り組みを引き続き意欲的に進めていきます。

これからも、奈良をすこしでもよくしたいという願いを強くもちながら、県民の皆様のご意見やご提案に十分に耳を傾け、皆様と力を合わせて奈良のより良き未来を築いていきたいと考えております。

皆様の一層のお力添えを心からお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



新年ごあいさつ

奈良市長

仲川 げん

あけましておめでとうございます。

奈良県建築士会の皆様におかれましては、健やかに平成二十五年の清々しい初春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は、ロンドンオリンピックでのボクシング村田諒太選手の金メダル獲得やiPS細胞開発による山中伸弥教授のノーベル賞受賞など、奈良市にゆかりのある方々の活躍に湧いた年であり、未来への希望や活力を得た方も多いのではないのでしょうか。

本市におきましても、東京での『国際観光フォーラム・旅博2012』への出展をはじめ、他都市との交流・連携を深めるなど国際文化観光都市奈良を大きくアピールすることができました。またリニア中央新幹線の間駅誘致に向け

た活動も本格的に始動しました。

一方市政改革におきましては、厳しい財政状況を乗り越えるべく徹底した行財政改革に取り組むとともに、土地開発公社の解散など積年の行政課題の解決に向け、一歩ずつ着実に前進しているところです。

また、建築分野を含めたグローバルな取り組みと致しましては、昨年の12月、東日本大震災以降、高まっているエネルギー需給の問題や地球温暖化に関する意識の高揚を踏まえ『都市の低炭素化の促進に関する法律』が施行され、都市政策や交通政策に限らず、建築の分野においても幅広い政策分野との緊密な連携を図りながら、総合的にCO₂の排出量を減らし、健全な都市のまちづくりを目指すことが示されました。

住宅など建築物が消費するエネルギーをいかに削減するか、また日本家屋の特徴である通風性や解放性とう調和させるか、建築技術の一段の発展と、それに携わる皆様方が多いにご活躍されることを期待しております。

本年も市民の皆様のご協力のもと、子や孫に誇れる素晴らしい奈良のまちづくりをしっかりと展開していきたいと思えます。

新しい年がよりよき年になりますよう心より記念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



年頭あいさつ

橿原市長

森 下 豊

新年、明けましておめでとうございます。

社団法人奈良県建築士会会員の皆さまにおかれましては、平素より橿原市政に対するご理解、ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、未曾有の東日本大震災や紀伊半島を直撃した台風などから、すでに1年以上が経っております。1日も早い復興のため、私たち橿原市も引き続き支援を続けてまいります。そしてこの大震災を契機に、省エネ・低炭素なまちづくりを、国を挙げて目指しております。本市におきましても、平成23年度から地球温暖化対策にもつながる、自然エネルギー・再生可能エネルギーの活用等、省エネの取り組みを公共施設に積極的な導入を図ってまいりました。小学校への太陽光パネルを設置し、子どもたちへの環境教育に役立てながら、保護者の皆さまへの理解をも深め、さらには、中古住宅を含めた一般住宅の高断熱、高

気密の省エネ住宅への取り組みへと発展させてまいりたいと考えております。

また、省エネ・低炭素なまちづくりのモデルとなるのが、県・医科大学・橿原市の3者の連携、協働による県立医科大学周辺のまちづくりです。今年8月末に成立し、12月から施行されました「都市の低炭素化の促進に関する法律」など新たな制度の活用も視野に入れ、交通インフラとエネルギーに着眼した環境にやさしいスマートシティとしてのまちづくりの検討を進めてまいります。本年には、基本計画検討業務に着手してまいります。

昨年から策定を進めてきました第3次総合計画の後期基本計画が4月からスタートいたします。橿原市の将来像「歴史・文化と人がつくる交流都市」を実現するため、そして、皆さまが“すこやか”に暮らしていただけるようなまちづくりを目指して、本年も全力で取り組んでまいります。

防災や減災、環境やエネルギー、美しい景観や良好なコミュニティ形成など、まちづくりに対するニーズは年々複雑多様化しており、建築に期待される役割は益々大きくなってきています。貴会会員の皆さまにおかれましては、専門家としての高度な知識や技術をもって、市民の安全で快適な暮らしにご尽力いただき、地域社会の健全な発展にご貢献くださいますようお願い申し上げます。

本年も、皆さまにとって実り多き年になりますよう心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



年頭挨拶

生 駒 市 長

山 下 真

新年あけましておめでとうございます。旧年中は本市行政に格別のご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、大飯原発再稼働や夏場の節電、そして年末の総選挙と、関西のみならず、日本は重要な問題に直面いたしました。

本市でも、特に、夏場の電力不足による計画停電を回避するため、市役所本庁舎では、平日閉庁を昨年の2日から4日に拡充して実施するとともに、平日の消費電力ピークを少しでも回避する対策として、昼休みの休憩時間を変更いたしました。

また、市民に対しては、省エネ家電へ買い替えた際に補助する制度や電力使用料の削減に取り組んだ家庭を募集して削減率の大きい家庭を表彰する「市民節電グランプリ」を行うなど、エネルギー消費の削減を強力に推進する緊急節電対策を実施いたしました。

さらに、太陽光パネルを設置したいと思ったときに気軽に電話相談ができる窓口の開設、太陽光発電に関するセミナーや相談会の実施など、市民とともに「環境 NO.1都市」に向けた取組を進めているところでございます。

本年は、生駒駅前北口第二地区市街地再開発事業が竣工を迎えますとともに、長らく懸案となっておりました生駒市立病院の建設工事に着手いたします。病院の件は、ここに至るまでの間、様々な紆余曲折がありましたが、市長就任以来、粘り強くこの問題に取り組むことができましたのも、皆様方の熱いご支援のお陰であります。改めて感謝申し上げます。

本市では、これまで「関西一魅力的な住宅都市」を目指して、様々な改革や新規事業の立ち上げなどを行ってまいりました。その結果、東洋経済新報社が実施している「住みよさランキング」で関西3位、「安心・安全な街ランキング」でも、都市型自治体の中で全国トップという評価を頂きました。本市が高く評価されていることは、市民にとっても、私たち行政職員にとっても大きな誇りであります。

これを励みに、本年もこれまで同様に前例にとらわれない大胆な改革や新規事業の立ち上げを行っていくと同時に、職員とともに一丸となって、市民の皆様にとって住みよい魅力あるまちづくりに取り組んでまいりますので、ご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

奈良県土木部

まちづくり推進局建築課長

奈 良 守 雄

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

奈良県建築士会の皆様におかれましては、幸多き初春を迎えられたことと存じます。

平素は奈良県の建築行政にご理解、ご協力を賜り、御礼申し上げます。

昨年は建築士の偽造免許証の写しによる非建築士の違法業務が発覚いたしました。偽造の免許証の写しにより建築士になりすまして建築士事務所に属し業務を行っていた、というものでございます。このことに関しまして、免許証の確認等で建築士の皆様にご協力を頂いたことをこの場をお借りして御礼を申し上げます。本県では免許証の偽造は見つかっておりませんが、今後とも、建築士制度の信用の確保や県民の皆様の安全安心を守るという観点からご協力をお願い致します。

さらに、昨年は東日本大震災を契機とするエネルギー需要の変化や国民のエネルギー・地球温暖化に関する意識の高揚等を背景として、「都市の低炭素化の促進に関する法律」が12月に施行されました。一昨年の東日本大震災以降、エネルギー問題は官民一体となって取り組む必要のある課題となっています。建築の分野におきましても、低炭素建築物新築等計画の認定制度をはじめとする、低炭素化・エネルギー利用の合理化への取り組みが求められるところです。

また、本県に大きな被害をもたらした紀伊半島大水害から本年9月で2年となります。県では、この支援対策として応急仮設住宅の建設等を行ってきたところですが、被災地の復旧・復興は短期間では解決できない問題であります。今後は、避難者の早期帰宅が優先課題であり、復興住宅の建設等、新しい集落づくりに向け取り組んで参ります。

貴会におかれましては、「なら安全安心住まい・まちづくり協議会」の活動をはじめ、安全安心な建築物、まちづくりへのご協力をいただいているところですが、とりわけ、住宅・建築物の耐震化の促進は逼迫した課題です。県民の安全で安心な生活を支える社会的使命を果たすため、貴会の皆様と共に努力して参りたいと思います。

最後になりましたが、奈良県建築士会のますますのご発展をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶と致します。

謹賀新年

(社)奈良県建築士会参与会々員

(株) 浅沼組 (奈良営業所) 奈良市油阪町14 住友生命奈良ビル ☎0742-26-5225 大西宏次	大倭殖産(株) 奈良市藤ノ木台1-2-15 ☎0742-43-9191 矢追盛賢	(株) 奥村組 (奈良営業所) 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル ☎0742-22-5001 朝日務	(株) 尾田組 奈良市高畑町738-2 ☎0742-26-6011 尾田芳信
鹿島建設(株) (奈良営業所) 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル ☎0742-23-4564 友竹和広	(株)鍛冶田工務店 御所市150-3 ☎0745-65-2131 柏原幸嗣	(株) 崎山組 橿原市南八木町2-3-35 ☎0744-22-2353 寄山雅由	清水建設(株) (奈良営業所) 奈良市大宮町7-1-33 奈良センタービル ☎0742-34-1510 柴田直三
大日本土木(株) (奈良営業所) 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル ☎0742-22-3071 高田正晃	(株)中和コンストラクション 桜井市桜井281-22 ☎0744-42-9313 大浦基嗣	(株) 中尾組 桜井市桜井553-1 ☎0744-42-3567 中尾隆成	中村建設(株) 奈良市三条大路1-1-48 ☎0742-33-1001 中村光良
(株) 平成建設 橿原市曾我町352-4 ☎0744-22-3800 吉崎雅之	(株) 槇峯建設 高市郡高取町丹生谷1061 ☎0745-67-0084 槇峯豊美	松塚建設(株) 宇陀市榛原福地610-1 ☎0745-82-1371 松塚幾善	村本建設(株) 北葛城郡広陵町平尾11-1 ☎0745-55-1151 市岡武
(株) 森下組 吉野郡大淀町檜垣本1589 ☎0747-52-3535 森下秀城	(株) 山上組 奈良市鳥見町1-1-3 ☎0742-44-0063 山上雄平		

明けましておめでとうございます

役員有志

(株) 北 和 設 計 奈良市法華寺町126-1 岩本西ビル 0742-30-4621 泉 谷 良 宏	Y A S プランニングオフィス 奈良市柏木町422-1 柏木ビル 3 階 0742-35-5591 稲 原 泰 裕	井上建築工房アルス 大和郡山市北郡山町158-6 大和第 3 ビル204 0743-51-0286 井 上 慶 治
(株) サ タ 工 務 店 天理市指柳町376-12 0743-63-1335 佐 田 春 樹	(株)城田建築設計事務所 奈良市佐紀町 1 番地 0742-33-5585 城 田 全 康	(株)竹村建築設計事務所 奈良市三条桜町10-12-101 0742-30-3311 竹 村 繁 喜
戸尾建築設計事務所 奈良市二条町 1 丁目 3 - 27 0742-34-7348 戸 尾 正 明	(株) 中 尾 組 桜井市桜井553-1 0744-42-3567 中 尾 七 隆	(株) 梶 谷 設 計 奈良市西ノ京町101-1 0742-34-1461 中 上 博 功
(株) 中 和 設 計 橿原市今井町 2 - 1 - 14 0744-25-5356 中 谷 芳 一	(株)伸構造事務所 香芝市瓦口2166 フロンティアビル 0745-71-2200 中 本 明	(株) 梶 谷 設 計 奈良市西ノ京町101-1 0742-34-1461 中 元 綱 一
(株) 福 本 設 計 奈良市大宮町 6 - 4 - 21 0742-34-2800 福 本 良 平	(株)伏見建築事務所 生駒市東生駒月見町190-1 0743-75-4824 伏 見 康 司	測 上 設 計 奈良市秋篠町765 0742-47-4100 測 上 徳 光
松 塚 建 設 (株) 宇陀市榛原福地610-1 0745-82-1371 松 塚 幾 善	(株)山本工務店 桜井市芝 1 3 6 2 番地 0744-42-5441 山 本 吉 治	(株)関西工務店 大和高田市材木町 1 - 3 0745-52-1515 吉 田 武 史



第32回近畿建築祭奈良大会レポート

2012年12月1日(土) 橿原神宮会館

参加人数285名(奈良県124名)

式典の開会宣言が司会者の女性委員長山本規子氏よりされて奈良大会は開会されました。

はじめに、福本会長より主催者を代表して会場にこられた建築士会の皆様に御礼の挨拶がありました。現在奈良県で行われているプロジェクトの説明をされました。「古事記」が2012年、「日本書紀」2020年に完成1300年になりこの二つの年をつなぐ9年間の「記紀・万葉プロジェクト」として展開していくというものでした。

次に森下豊橿原市長より、日本の歴史が橿原の地からはじまったことの説明がありました。現在行われている藤原京の発掘が3割になれば日本の歴史が変わるともいわれ、またこれらを発信して「世界遺産」につなげたいと述べられました。

続いて林功奈良県土木部まちづくり推進局長より、「記紀・万葉プロジェクト」の取り組みの実践について、詳しく説明がありました。

そして福本会長から来年度開催地の大阪府建築士会岡本森廣会長へ大会旗がしっかりと引き継がれ式典は終了しました。

記念講演は桜井市纏向学研究センター所長寺澤薫氏より「日本国家の起源を探る」があり、「部族的国家(クニ・国)」・「倭国」・「日本国」の日本列島における三つの国家概念の説明がありました。また発掘により出土したものから上屋が想像されて作られていく手順がとても興味深く、講演時間の1時間はあっという間に過ぎました。

(記・橿原支部 福西保夫)

■Aコース(談山神社)



●ルート：橿原神宮13：00～談山神社【神社の案内(文化財建造物の説明)】14：00～16：00→近鉄八木→橿原神宮前→近

鉄橿原駅16：50解散

●講師：談山神社 佐古良男氏

奈良県教育委員会文化財保存事務所 館俊秀氏

●参加者：滋賀県12名、大阪府13名、兵庫県11名、奈良県43名(文化財建造物専門家育成講習会参加者含む)

●みどころ：館様：総社本殿は、今回末修繕だが、柱・梁を彩色し直す、剥落止めをし彩色する、はぎ取る、正面だけ彩色する等を検討。権殿は、柱が長押から下が濃い赤、上が朱に塗られたツートンカラーで、濃赤部分は、エゴマ油と松ヤニ等を材料とした、ペンキ状塗料のちゃん塗り、奈文研に分析依頼し、神社にも材料を記載した文献があったので初採用。乾きが半年と遅く、虫の付着等に苦労したが、耐久性や艶が残る等の利点がある。権殿の柱は、内陣と外部で位置がずれていたが調査により、ひげ垂木の寸法の割付けと判明。なお、柱の虫食い被害が酷く、柱頭部を継ぎ足したが解体修理でないため苦労したとのこと。

佐古様：本殿は日光東照宮のモデルと言われ、徳川秀忠が建替。室町時代の談山神社は、明と交易し裕福、本殿の格天井下部の曲材に現在グラム七千円の香木・伽羅を利用。

(記・奈良支部 高安秀和)

■Bコース(古代寺院コース)



●ルート：橿原神宮13：00～13：30 飛鳥寺(日本最古の寺) 14：15～14：30 奈良文化財研究所 飛鳥資料館15：30～15：40 山田寺跡16：00 その後帰路へ

●講師：奈良文化財研究所 飛鳥資料館 成田 聖氏

●参加者：滋賀県2名、大阪府9名、兵庫県5名、京都府10名、和歌山県0名、奈良県4名 計30名

●概観とみどころ(講師の説明と資料より抜粋)

飛鳥寺：明日香村大字飛鳥に所在する、我が国最初の本格的な寺院、発願は蘇我馬子とされる法興寺・元興寺とも称される。講堂の中には、本尊飛鳥大仏が祀られています。606年に推古天皇が中国渡来した鞍作止利仏師に造らせたそうです。飛鳥資料館：資料館では発掘資料を中心に最新の飛鳥研究の成果をわかりやすく展示してあります。1982年の発掘調査で山田寺東回廊が倒れた状態で地中に埋まっているのが見つかりました。最も状態が良かった柱間3間分を保存処理をして再現してあります。山田寺跡：現状は発掘調査の後埋め戻さ

れ一部礎石のレプリカが置いてあるだけの野原となっているが、何れ所かは本物の礎石がそのまま置いてあり、それを探すのも見所のひとつです。飛鳥資料館で再現された東回廊を見てから訪れた方がいいと思います。

(記・生駒支部 岩城由里子)

■Cコース 飛鳥藤原古代宮めぐり



●ルート：檀原神宮→奈良文化財研究所藤原宮跡資料室→奈良文化財研究所（飛鳥・藤原地区）→飛鳥水落遺跡→飛鳥板蓋宮跡→亀型石造物→万葉文化館→檀原神宮

●講師：奈良文化財研究所都城発掘調査部 杉山 洋氏
明日香村教育委員会文化財保存課 西光慎治氏

●参加者：滋賀県2名、大阪府2名、兵庫県5名、奈良県12名
計21名

藤原京跡の発掘は檀原市、奈文研、明日香村三者で発掘を行っている、発掘と日本書紀資料により建物配置決めて模型を作製している、中心に大黒殿（政治）その廻りにお役所が配置し、都市計画が整然としたまちづくりされ律令制的な都市国家が成立されていた。藤原京よりも歴史をさかのぼり明日香時代の豪族中心から天皇中心の遺跡を廻って行きました、水落遺跡では明日香時代に瓦を葺かないのに土台が礎石の上に柱があり、礎石の下は（ハチ）付き固めているこのような建物は珍しく重要な建物であり庶民に権力に一つである時間示した。5人の天皇が同じ位置で都を置き政治を行った場所が伝飛鳥板蓋宮跡あり、天皇中心の政治の発祥地である、史跡の説明を聞いて空想していると今は田園風景しか見えないがその当時は建物が立ち並び今という大都市が形成されていたとは驚きでした。大変寒い一日でした。

(記・檀原支部 崎山泰正)

■Dコース（初瀬のまちなみ散策&国宝長谷寺本堂の見学）



●ルート：檀原神宮13：00～初瀬のまちなみ散策（登録文化財山田邸・伯瀬長者亭等）13：40～15：00 長谷寺礼堂にて講話後、観音堂の見学15：00～16：00 その後帰路へ

●講師：（長谷寺学芸員；甲田弘明氏、元県文化財保存課主幹（現在、東大寺勤務；今西良男氏）

●参加者：滋賀県4名、大阪府6名、兵庫県1名、三重県12名、京都府1名、和歌山県36名、奈良県25名 計85名

●概観とみどころ（講師の説明と資料より抜粋）

大昔から日本人は、お伊勢さま(天照大神)にお参りするのにも長谷の観音さまにお参りするのにも全く同じ意味をもっていると思ひ生きてきた。創立一奈良時代以前 本堂創建一735年その後7度の焼失と2度の破損を経て、現在の本堂は9代目1650年に中井大和守やまとのかみの建築で造営された。建造物の特色は、正堂は組天井であり、観音を祀ろうと装飾的である。一方、礼堂は天井が無く、人間的に作られている。奈良時代までは、正堂と礼堂は平行配置(双堂形式)であったが、平安末期から鎌倉時代初期にかけ一体化(複合)されている。舞台は懸造、床板は15年～20年で取替えられている。屋根は空葺屋根(土葺痕跡無し)。(記・桜井支部 中尾七隆)

■Fコース（山辺の道；三輪神社から檀原神社・箸墓古墳）



●ルート：大鳥居横前駐車場13：30(以降徒歩)→大神神社13：50→大和の杜（展望台）14：00→狹井神社14：10→月山記念館15：00→檀原神社15：20→ホケノ山古墳16：00→国津神社16：15→箸墓古墳16：20→三輪そうめん山本駐車場16：40以降神宮駐車場 解散

●講師：桜井市教育委員会文化財課 橋本輝彦氏

●参加者：滋賀県3名、京都府5名、大阪府3名、兵庫県1名、奈良県1名、士会奈良スタッフ6名、計19名

●みどころ：山^{やま}辺^の道^{みち}は奈良盆地の東^{ひがし}辺^べ、大^{やま}和^と高原^{こうげん}の西^{せい}麓^{ろく}をやや曲折しながら南北に通じる約35キロの道で、日本最古の道の一つと言われております。今回は上記ルートに従って三輪神社から北^{きた}へ檀^{たん}原^{げん}神社、ここから西^{にし}にホケノ山古墳、巨大古墳の箸^{はし}墓^{ぼか}古墳と、約5キロの散策でした。講師の橋本氏に古社寺等のレクチャー受け、又、月山記念館では、当主自らの案内で日本刀の歴史・文化・美術で造形の説明を聞き、三輪山や大和三山等優れた景観を展望しながら、有意義な一時を過ごせました。(記・桜井支部 松尾憲治)



第15回奈良県景観調和デザイン賞 受賞作品決定



奈良県建築士会では奈良県、他の後援をいただき、奈良県の恵まれた伝統や自然環境と調和し、住みよい町の創造と景観形成に寄与した建物やまちなみなどを「奈良県景観調和デザイン賞」として表彰してきました。第15回目を数える今回、下記のとおり受賞作品が決定しました。

知事賞 東大寺総合文化センター

- 所在地 奈良市水門町
- 施主 宗教法人 東大寺
- 設計者 株式会社建築研究所アーキヴィジョン
- 施工者 共同企業体 株式会社大林組
三和建設株式会社
株式会社ゴセケン

会長賞 奈良町宿 紀寺の家

- 所在地 奈良市紀寺町
- 施主 藤岡 清
- 設計者 藤岡建築研究室
- 施工者 ヒロタ建設株式会社
株式会社ツキデ工務店

奨励賞 第162母屋天理教河原町大教会信者詰所

- 所在地 天理市田井庄町
- 施主 宗教法人 天理教
- 設計者 株式会社竹中工務店
- 施工者 株式会社竹中工務店

審査委員長賞 櫛羅の家

- 所在地 御所市櫛羅
- 施主 田中 英嗣
- 設計者 田中 英嗣
- 施工者 株式会社Yoshikawa

—第15回奈良県景観調和デザイン賞 総評—

(審査委員長 出江 寛)

奈良に限らず京都や金沢等、日本の古い街は美しい。それは、木・土・石・瓦による素材で造られていて情緒的であるからだ。現代建築の多くはドライで貧相になった。それは、ケミカルな材料で造られ、又、屋根には省エネの理由で太陽光パネルが多く見られるようになり、古い街にはそぐわない。そして、建築基準法による拘束によって自由なデザインが出来なくなったこと等により、益々ドライで貧相になってきた。

奈良のような古い街には、今の建築基準法だけではなく、奈良独自の更に厳しい美的・景観条例に改正すべきである。

その様な現状の中での景観審査は非常に難しいが、私は審査基準（ポリシー）をその建築が饒舌ではなく、美しく「沈黙」が存在しているかどうかで決めることにした。それは奈良や京都が寺町という神仏の街であり、奈良の街

の本質は沈黙にあるからだ。

哲学者のM・ピカートは「人間の本质は言葉であり、神の本质は沈黙である。キリストは沈黙の人であった」としている。又、「沈黙は何の役にも立たず何の経済活動もしないが、唯一、人間の心を癒すものである」としている。

昔の古い街には沈黙が確かに存在し、人間の心を癒すものであった。

現代建築・都市はその沈黙を失った。

東大寺総合文化センター

《知事賞》

一休禅師の美学に「真・行・草」の美学がある。これは、字で言うなら楷書・行書・草書の意味である。この建築は、真態のデザインである。これは、神・仏・天皇家等への形態を示す。端正な形であり力強くモダンである。それは本瓦葺きの太い影と瓦の素材感、そして深い軒下の影の深さに「沈黙の美」を見せていることである。

奈良町紀寺の家

《会長賞》

このオーナーは、お茶・お華等日本の美学、侘びの精神に精通しながら、実に洒脱でモダンなお人柄の方だと感心した。建物の復元も良くできており、路地は一休禅師における「草態」の空間としている。これは、決して外国人には真似の出来るものではない。侘び、即ち「沈黙」が存在している。又、古民家を宿として再生し、街おこしや活性化にも一役かっていることも素晴らしい。

天理教河原町大教会信者詰所

《奨励賞》

この建築は、壁を主体としており、実に普通である。しかし、白壁に慎重に穿った窓とのバランスに聖なる精神性を感じさせ、「真態」のデザインとして卓越してうまい。これこそ普通性の高まったデザインである。普通性を高めることは、奇を衒い変わったデザインよりも遥かに難しい。

設計者は、かなりの手馴れであろう。普通性の高まりとは「沈黙」を意味する。

櫛羅の家

《審査委員長賞》

昔の大工さんはどうしてこんなにデザインがうまいのだろうかと感心しています。誰が教えたのでしょうか。これが伝統と言うのでしょうか。

旧街道に面した郵便局舎は昭和の時期に増築されたものと思われる。ピンク色の建物を解体し、元の伝統的な屋敷構えに復元されているのだが、そこにかつてあった郵便局の㊦型マークをうまく窓にデザインしているのが新鮮で深く印象に残った。しかし、面格子や床板が素木のままで白々しく感じ、残念であった。これ等は昔の色に倣って古色色にするべきだと思った。

昔の建物には確かに「沈黙」が存在していた。



1

2

3

4

1. 知事賞 東大寺総合文化センター
2. 会長賞 奈良町宿 紀寺の家
3. 奨励賞 第162母屋天理教
河原町大教会信者詰所
4. 審査委員長賞 柳羅の家



国土交通省：地域型住宅ブランド化事業

「地域型住宅ブランド化事業」への取り組み

この事業は、地域工務店と関連事業者（地域材等資材供給から設計・施工まで）が緊密な連携体制を構築し、地域資源を活用して地域の気候・風土にあった良質で特徴的な「地域型住宅」を供給する取り組みを促進させるもので、地域における木造住宅生産・維持管理体制を図り、地域経済の活性化及び持続的発展、地域の住文化の継承並びに町並みの維持・保全、木材自給率の向上による森林・林業の再生等に寄与することも目的とされ、中小住宅生産者が他の事業者、木材供給者、設計者等の関連事業者と共に構築したグループが公募されました。採択されたグループに対しては、一定のルール（主に地域産材を構造材に一定割合以上使用）に沿った木造の長期優良住宅の建設を行う場合に、その費用の一部が国から補助されます。各地での長期優良住宅の建設の促進と、グループを作ることによる技術力の拡大も目的とされています。わたしたち「奈良をつなぐ家づくりの会」は、工業製品化された住宅生産の昨今の状況を憂い、家づくりの現場が林業の継承と職人技術の伝承の場になることを第一義に考え、「地域産材を使った職人の手による家づくり」を最大のサービスと捉えた家づくりの実践を提案し、採択を受けました。

奈良をつなぐ家づくりの会の提案する「奈良をつなぐ木の家」の主なルールは以下の通りです。

- ・奈良県産材の使用（構造材75%以上、羽柄材80%以上、内外装材30㎡以上）。奈良県産材取扱事業者登録の製材加工とする（トレーサビリティの徹底）。含水率の管理。
- ・軒の出を75cm以上とする。外部仕上げの一部に木を使い、外壁は左官工法とする。窯業系・金属系外装材は使用しない。
- ・室内建具は既製品を使わず製作ものとする。
- ・施工者は住宅履歴情報を管理し、引き渡し30年後までの維持保全計画書を作成する。会員相互による定期点検の実施。等

構造材のみの規定（県産材の使用割合）ではなく、奈良の住まいとして気候風土に合う仕様にすることも具体的に取決め、本来の奈良の町並みに馴染むよう「奇抜なデザインをしない」という事も掲げました。室内建具に既製品を使わない事は大工や建具職人の技術を使う事になり、材料としての木を多く使う事にもなります。

会の活動としては、グループ内の技術力向上のために勉強会や見学会を実施しています。まちの工務店や設計者は、林業の施業方法・製材・乾燥について学ぶことにより本来の木の素性について知識を深めることができ、木造建築の現場が密接に関係している日本の林業についても考える機

会になります。また林業家や製材関係者は、工務店や設計事務所など家づくりの現場の現状やニーズを知ることによって今後の展開に活かすことが出来ます。川上から川下までが一体となり知識を共有して家づくりに取り組む事で、さらに品質の高い家づくりを実現する事が可能になります。

■吉野林業を学ぶ山林見学会

日本でも有数の良質な材を生む吉野林業の施業方法、伐採方法について山の管理者の方より話を伺いました。



■製材所見学ツアー

会員製材所を順番にまわり、製材・乾燥方法及び各社の得意な分野について説明を受けました。



川上～川下までつなげよう 建築士



■グループ内勉強会

・「木材乾燥についての勉強会」 木材は乾燥方法により素性が変成するため強度にも関係します。昨今は人工乾燥にもさまざまな方法がありますが、乾燥方法による変成の違いや含水率を品質としてどう考えるかを学びました。



・「長期優良住宅・省エネ住宅勉強会」 第1回目は長期優良住宅の仕様、施工方法、省エネ住宅の仕様規定について学び、第2回目は住宅の熱損失係数Q値と日射取得係数μ値の計算の方法及び、自然を活かした「夏涼しく冬暖かい」住まいの作り方（パッシブデザイン）について勉強しました。一般的な省エネ地域区分とは別にパッシブ地域区分の考え方も取り入れ、奈良の気候風土に相応しい「奈良をつなぐ木の家」の仕様について考えました。



■一般への普及促進活動

山林見学会や構造見学会、及び地域のイベントへの参加、住宅相談会なども実施しています。イベントでは伝統的木組み模型展示の他、大工さんによる墨付けや刻みを披露したところ、多くの来場者に関心を持っていただきました。



我々は「奈良×つなぐ×木の家宣言」を行い、ホームページやfacebook等インターネットによる情報発信の他、会の主旨をまとめたパンフレットや現場に掲げる広告シート等を作成しました。

我々のつくる「奈良をつなぐ木の家」は、森とまちをつなぐ木の住まいです。木材は炭素（C）を固定しているので、木の住まいを建てることは都市に「第二の森」をつくることになります。森は適切な伐採を行う事により健全な維持管理を行う事が出来ます。

我々の活動は、実際に家を建てる建て主の理解の上に成り立つものです。家づくりの現場が森と密接につながっている事と、大工左官等の職人の仕事の場として後継者の育成にもつながっているという事を、多くの方に発信していきたいと思います。

（記・生駒支部 岩城由里子）



「奈良をつなぐ木の家」広告シート



県産材でつくる奈良をつなぐ木の家
上棟式の様子



連載 PART 5

なら・まちづくりコンシェルジュ

1. はじめに

“なら・まちづくりコンシェルジュ”（以下、コンシェルジュ）事業がスタートした翌年の4月（平成20年）に、葛城市竹内地区の住民の方々により、「葛城市竹内地区の歴史文化遺産として竹ノ内街道を保存、継承するとともに、竹ノ内街道を活用して地域の文化教育活動及び地域活性化に資する」ことを目的として“竹ノ内街道保存会”（以下、保存会）が発足しました。今回は、保存会とコンシェルジュとの連携と、同地域における今後の展開について紹介します。

2. 竹ノ内街道と竹内地区

大阪府と奈良県を東西に結ぶ竹ノ内街道は日本書紀の推古天皇21年（613年）の条に「難波（大阪）より京（飛鳥）

に至る大道を置く」と記され、日本最古の「官道」ともいわれ、江戸時代から竹ノ内街道と呼ばれています。また、現在の竹ノ内街道は、大部分は推古



【昭和30年代頃の風景画】

天皇時代の官道と重なっており、東側は奈良盆地南部を東西に横切る官道横大路につながっています。

この街道が通る葛城市竹内地区は、山の中腹にあり、高台に立てば、深々と緑が美しい大和三山、二上山が一望に見渡せられます。また、懐かしい情景が残る街道筋には、歴史ある社寺や江戸時代末期の風情ある家並みが続き、鍋塚古墳をはじめ、多くの古墳が点在しています。江戸時代には宿場町として栄え、訪れた松尾芭蕉や小林一茶が句に



【竹内地区高台から大和平野を望む】

詠んだ同じ道を、さかのぼれば遣隋使や遣唐使、渡来人が往来し、周辺では遙か縄文から弥生、古墳時代に至る

遺物や遺跡も数多く出土するなど、幾重にもいにしえのロマンが重なります。

3. 保存会とコンシェルジュとの連携

竹内地区では、保存会が発足する前から、“竹内自然を愛する会”と言うインフォーマルな組織があり、平成18年頃から、竹炭の生産や、竹燈会等、竹に関連する地域活動等を地道に展開されていましたが、平成20年に区長等、主に地域住民の役員を主体とした現在の構成メンバーになりました。コンシェルジュと保存会の最初の連携事業として、1年目は“まちづくりマップ”を協働で作成することから

始まり、最初に、竹内の地域資源を再認識するため、協働で資源調査を行いました。地元の方には、めずらしくないことで



【まちづくりマップ】

も、我々コンシェルジュには新鮮に思われたり、また、その反対もあり、自由な意見を出し合いながら、資源等をマップに落とし込み、整理作業を経て平成21年3月に完成しました。2年目は、そのマップを活用して、平成21年11月1日に“竹ノ内街道まち歩き”を実施しました。まち歩きの途中で雨が降り出す等トラブルもありましたが、参加者（県内外約50名）は最後まで熱心にボランティアガイドの説明に聞き入っていました。内容はまち歩きに加え、普段は公開されていない、西光院の十一面観音菩薩（別名：身粉観音）や重文の地蔵菩薩等を住職自身で説明いただいたり、婦人会の炊き出しによるおにぎり等のふるまい等、地域ぐるみでのもてなしが実施され、参加者は一同に感動されていた様子でした。



【まち歩きチラシ】

最古の官道「竹ノ内街道」～1400年祭に向けて～

4. 保存会自身の取り組み

その後、保存会自身も、盆踊りやカラオケ大会等の俗世的なイベントを改め、平成21年から葛城の民話を題材にした紙芝居を実施したり、竹燈会の飾り竹も、単純な竹製蠟燭台から、まるでオブジェのような蠟燭台



【竹燈会の蠟燭台】

を製作したり、地域住民主体の祭りから、来訪者にも楽しめるような祭りへと工夫を加えられてきました。平成23年からは、隣接する大阪府太子町の大阪芸術大学と連携し、学生によるよさこい踊りや大道芸も実施する等、年々盛り上がりを見せています。



【学生によるパフォーマンス】

5. 竹ノ内街道1400年祭に向けて

竹ノ内街道は来年（2013年）で丁度1400年を迎えることになります。平城遷都より約百年早く1400年を迎える葛城市では、この期を契機として市の観光資源を有効に活用するため、前観光庁長官で現内閣官房参与の溝畑宏氏や尾登誠一氏（東京芸術大学美術学部教授）、シェリー山口氏（NHKエグゼクティブプロデューサー）をはじめとする十人を観光アドバイザーに委嘱し、7月23日にその初会合が葛城市役所 新庄庁舎で開催され、コンシェルジュも山下葛城市長からオブザーバーとしての出席依頼を受け、筆者が出席しました。会議の要旨としては、これからの観光戦略は総力戦であり、多言語表



【溝畑前観光庁長官】

示やもてなしの心等が必要であり、何よりも市民全体が参画し盛り上げていくことが重要との意見が出ました。

奈良県でも、大阪府や堺から飛鳥までの大道のコースにあたる市町村と連携し、次年度に『竹ノ内街道・横大路～難波から飛鳥へ日本最古の官道（大



【1400年に向けてのイメージ図】

道）～1400年首長サミット』を開催すべく、9月18日に準備会の初会合が行われ、次年度の本開催並びに今後の方向性について検討しているところです。

保存会においては、今期より仲田正徳前副会長が会長となり1400年祭に向けた準備を着々と展開されています。具体的には、県のならの魅力創造課が募集していた『記紀・万葉』県民活動支援事業に応募し、見事内定を受けました。その事業内容としては、これまで竹内地区で取り組まれて



きた竹燈火会等のイベントの他に、隣接する大阪府の太子町のまちづくり団体と合同で街道ウォークを企画したり、夏まつりの中に、新たに「竹ノ内街道物語」の寸劇を取り入れ、竹ノ内街道にゆかりのある人物（芭蕉、履中天皇、小野妹子）を登場させる等、新たなイベントを計画されています。

コンシェルジュとしても、今後とも引き続き保存会と協働で、多様な事業に関わっていく予定です。

6. おわりに

作家・司馬遼太郎氏の母の故郷でもあり、その著書『街道をゆく』の中で、竹内の景色について『大和で、この角度からみた景色がいちばんうつくしい』と著されている葛城市の「竹ノ内街道1400年祭」の官民併せた取り組みには、今後、目が離すことができません。

【記：なら・まちづくりコンシェルジュ 小西功記
（奈良県郡山土木事務所管理課係長）】



第20回近畿あーきてくと2013地域実践活動発表会



㊦ 第20回 近畿あーきてくと2013 地域実践活動発表会

2013年2月9日(土) 開場12:30 / 開演13:00

【定員200名(申し込み先着順)】

* 建築関係者だけでなく、一般・学生の方のご参加もお待ちしております

【参加費500円(資料代)】

学生無料



【会場】大阪府建築健保会館(大阪市中央区和泉町2丁目1-11)

(アクセス) 地下鉄谷町四丁目駅下車 8番出口より 徒歩約6分



【プログラム】

開会式 13:00~

<第一部発表会> 13:20~

和歌山県 中西 重裕 歴史的建造物の映像化
京都府 寺川 徹 東山区空き家対策プロジェクト
滋賀県 野色 辰治 歴史街道と山村集落の一体的再生~その後~

学生団体 龍野北高等学校環境建設工学科

課題研究(たつの市歴史的建造物修繕工事)

奈良県 高田 大輔 奈良県住宅課

大阪府 中西 和也 姫路市の離島「いしま」の観光まちづくり

兵庫県 草野 博昭 建築を知らう・地域を知らう

~地域工場・材料見学・製作体験会~

<第二部 講演> 15:55~

講師 京都大学大学院工学研究科建築学専攻

教授 門内 輝行

<第三部 質疑・応答> 17:00~

閉会式 17:20~

【交流パーティー】 18:00~20:00

会場: 湖岸樹 谷町店

定員: 80名

* 有料 参加費5,000円(学生3,000円)

* 敬称略

* 若干時間等に変更がある場合もございます。予めご了承ください。

主催 近畿建築士会協議会青年部会

共催 (公社)日本建築士会連合会

(公社)滋賀県建築士会

(社)京都府建築士会

(社)大阪府建築士会

(社)兵庫県建築士会

(社)奈良県建築士会

(社)和歌山県建築士会

後援 国土交通省近畿地方整備局

滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県

奈良県 和歌山県 大阪市

(公社)日本青年会議所近畿地区協議会

近畿ブロック商工会議所青年部連合会

近畿ブロック青年中央会(順不同)

【お申し込み・お問い合わせ】 近畿建築士会協議会 青年部会事務所 TEL 075-211-2857 FAX 075-255-6077

ホームページ <http://www.kinkensei.com>

第20回 近畿あーきてくと2013 地域実践活動発表会

今年度のテーマ **地域力**

～ 創造するコミュニティ ～



●発表内容の概要

【第一部 発表会】

① 和歌山県

歴史的建造物映像化の会
歴史的建造物の映像化／中西 重裕
和歌山市の「わかやまの底力・市民提案実施事業」として、和歌山市に残る歴史的建造物の中から選択し、それぞれ20分程度の作品で建物の映像にナレーション、所有者の方のインタビュー、オリジナル音楽で構成。作品の上映会・見学会を実施する。

② 京都府

京都府建築士会青年部会
東山区空き家対策プロジェクト/寺川 徹
京都市東山区での空き家の増加、管理されない建築物が危険家屋化していく状況の中で、既存ストックを活用するうえでの建築基準法の限界もあることから、建築に関する職能団体の若手メンバーで、空き家を活かす方法を考えるほか、建物のことを知ってもらう活動など、社会や地域に貢献できる活動を行う。

③ 滋賀県

栗東市街道百年ファンクラブ
歴史街道と山村集落の一体的再生～その後～/野邑 辰治
旧東海道と旧中山道を主とした、景観整備を通じた賑わいの再生（空家調査と移住受入、景観資源の再整備、祭りやフォーラムの開催）限界的集落観音寺地区の再生（間伐材利用の推進、水仙街道整備、各種イベントの開催、移住受入）→「まち」と「山」をつなげる取り組みに発展

④ 学生

たつの市歴史的建造物修繕工事/
龍野北高等学校環境建設工学科

兵庫県建築士会龍野支部青年部会や職人さんなどの技術指導を受け、龍野景観形成地区内にある歴史的建造物を生きた教材として触れさせてもらいながら建物の修繕作業を行う。

⑤ 奈良県

奈良県建築士会
奈良県住宅課/高田 大輔

地域のまちづくり活動を継続してサポートする（知事から任命を受けた）県職員である「なら・まちづくりコンシェルジュ」の現場での具体的な活動紹介と、活動の中で感じている専門的な立場で支援する建築専門家（コミュニティ・アーキテクト）の必要性について。

⑥ 大阪府

姫路市の離島「いえしま」の観光まちづくり
いえしまコンシェルジュ/中西 和也

姫路市の離島「いえしま」の観光まちづくりの促進。いえしまの情報発信や認知度向上、観光客に対するまちあるきガイドや島民が実施する体験プログラムなどの観光コーディネート

<http://nakanishieshima.jimdo.com/>

⑦ 兵庫県

兵庫県建築士会
建築を知らう・地域を知らう

～地域工場・材料見学・製作体験会～/草野 博樹
地元兵庫にある建築材料の工場見学に伴い、自ら製作を行う「製作体験」を盛り込んだ一般参加型見学会+製作体験ツアーの開催

【第二部 講演】講師：門内 輝行（京都大学大学院工学研究科建築学専攻 教授）

テーマ：『創造するコミュニティのデザイン～地域景観づくりの実践を踏まえて～』



【賞罰】
日本建築学会賞（論文）
受賞 1998年5月

【略歴】
岡山県生まれ
1950年 京都大学工学部建築学科卒業
1973年 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了
1977年 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程中退
1977年 東京大学産学技術研究所助手
1989年 早稲田大学理工学部助教授
1997年 早稲田大学理工学部教授
2004年 京都大学大学院工学研究科教授（建築学専攻）
現在に至る

【社会活動】 国際科学技術財団・2000年（第16回）日本国際賞審査委員会・
都市計画分野審査委員（1999年～2000年）
京都市美観風致審議会委員（2005年～）
京都市 景観・まちづくりセンター評議員（2007年～）
京都府景観審議会委員（会長代理）（2007年～）
京都府景観アドバイザー（2007年～）
京都市役所整備懇談会会長（2008年～2010年）
宇治市開発事業紛争調停委員会委員（2009年～）
大津市景観審議会委員（2010年～2012年）
鹿儿岛市景観まちづくり審査委員会委員長（2010年～2011年）
京都市岡崎地域活性化ビジョン検討委員会委員（2010年～2011年）
京都岡崎魅力づくり推進協議会（エリアマネジメント組織）アドバイザー（2011年～）
京都市優良デザイン促進制度 景観アドバイザー（2011年～）

【第三部 質疑・応答】

● 交流パーティ 講師・発表者との交流を行います。

※お申し込みは近畿建築士会協議会青年部会事務局（京都府建築士会内）までFAX又はメールにてお願い致します。

第20回 近畿あーきてくと2013 地域実践活動発表会 参加申込書【定員200名 申込先着順】

氏名	建築士会員・一般（どちらかに○をつけてください）
勤務先・学校名	士会名・支部名（会員ののみ）
住所 〒	
電話	交流パーティー ☐ 参加 ☐ 不参加（※切 1月10日）

■ お申し込み・お問い合わせ先

近畿建築士会協議会青年部会 事務局 TEL：075-211-2857 FAX：075-255-6077 E-mail：contact@kyoto-kenchikushikai.jp
※ お書きいただいた個人情報は内部資料に留め他の目的に使用する事はございません。



最新金物情報勉強会

高田支部は、平成24年11月22日(木)にスガツネ工業株式会社大阪支店ショールームにて、「最新金物情報勉強会」を開催致しました。

今回の勉強会は、最新の金物に関する知識を得る事により、建築士としての資質の向上、また日々の業務に役立てていこうと企画しました。



普段私たちが見過ごしがちな、建築金物について、スガツネ工業株式会社様のご厚意により、前週に開かれていた新商品の展示会と同様に、特に「建具金物」についてパワーポイントを使って非常に分かり易い説明をして頂きました。

■隠し丁番

〈特徴〉

- ・閉じると外から見えない為、本来のデザインが際立つ。
- ・防犯性に優れている。
- ・取付け後に扉の三次元調整が可能。
- ・仮止め機能付きで、短時間で扉取付け可能。
- ・従来品より低コストで提供可能。
- ・2011年グッドデザイン賞受賞品。



■ラブコンドアダンパー



〈特徴〉

- ・既存ドアに後付け可能。(リフォーム対応)
- ・三次元調整機能付隠し丁番と組み合わせ可能。
- ・ドアがゆっくり閉まるので、音がほとんど出ない。
- ・2011年グッドデザイン賞受賞品。

■デュアルソフトクローザー



〈特徴〉

- ・扉を戸先側は2段階、戸尻側は1段階でゆっくり引き込む。
- ・軽い力で開けられる。(介護リフォーム対応)
- ・強い力で閉めても枠に当たりにくい。(騒音軽減)
- ・アウトセット引き戸にも対応。

■マルチモフラット

〈特徴〉

- ・パズルのように扉が自在に引かれる革新的なフラット引き戸。



■まとめ

上記のように建築金物だけでも、ここで紹介しきれない品物が多数展示されていました。パワーアシストなどの動作感覚、調整などのコントロール技術を背景とした高い技術力・製品群を表現した建築以外の金物に関しても充実していました。興味をもたれた方はショールームに一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

また今回は、マイクロバスにて高田から往復したこともあり、参加者間で車中交流を深められたと思います。他支部の会員様及び土会ホームページを見た方も参加して下さい、大変価値のある勉強会であったと思われます。

(記・高田支部 村井利光)



お知らせ

●第32回近畿建築祭奈良大会が無事終了

12月1日(土)橿原神宮会館で開催した近畿建築祭奈良大会、近畿各府県から総勢270名余り参加をえ、盛大に行われました。今回、古事記1300年にちなんだテーマで基調講演を行い、午後からは5コース、7班に分かれてエクスカージョンを行いました。多くの会員皆様のご協力により、成功裏に収めることができましたことを、深く感謝申し上げます。

近畿建築祭奈良大会実行委員部会

担当副会長 中本 明
教育事業委員長 中谷芳一
実行委員長 垣内文史

●既存木造住宅の耐震診断・補強設計講習会

【限界耐力計算】のご案内(奈良県における木造住宅の限界耐力計算による伝統構法耐震診断技術者養成のための講習会) ↗

Information

木造軸組構法の新しい耐震設計法は壁量規定に拠らずとも、建築基準法に適合した限界耐力計算による耐震性能評価が適用可能となりました。このことにつきまして今年度も別紙チラシのとおり奈良県のご後援のもと講習会を開催いたしますので多数ご参加ください。

日 時 平成25年2月2日(土) 受付9:00~16:00

場 所 奈良市ならまちセンター(奈良市東寺林町38番地)

●平成25年度 一級・二級・木造建築士定期講習についてのお知らせ

平成25年度の定期講習につきましては、(社)奈良県建築士事務所協会が受付を行います。

※詳しくは(TEL)0742-34-8850までお問い合わせ下さい。

日程予定

第1期 6月7日(金) 奈良県産業会館

第2期 8月28日(水) 春日野荘

第3期 11月27日(水) 奈良県産業会館

第4期 未定

●奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会

(更新及び新規登録) CPD=3単位

日 時:平成25年1月22日(火)

13:00~16:30(受付12:30~)

会 場:奈良県文化会館 小ホール

定 員:200名

※平成24年度奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会はこの開催のみですのでご注意ください。尚、詳細・申込は『士会奈良』12月号に同封の用紙をご覧ください。

※『士会なら』12月号にて会場を春日野荘と掲載致しましたが、奈良県文化会館に訂正させていただきます。

※会場へはできるだけ公共交通機関のご利用をお願いします。

●若山滋氏講演会「奈良と日本建築—文学のまなざし—」

日時:平成25年1月26日(土) 14:00~16:00

場所:生駒セイセイビル 4F会議室 (生駒支部主催)

定員:120名 参加費:1,000円

※詳細は奈良県建築士会ホームページに掲載。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

今年は、公益法人としてのスタートの年であり、私も新しい目標にむかって、後ろを振り向かず、前進あるのみで、頑張っていると思いますが、1月が過ぎ、気が付いてみれば、3月、4月やる気になれば、8月、1年は早く過ぎていき、毎年のごとく、終わってしまいます。会員の皆様、今年こそ良い年でありますよう!

昨年は、奈良でのイベント近畿建築祭が、開催され、役員、事務局の皆様におかれましては、早くから準備に追われた事と思います。私は、前日の担当は、看板、椅子、机の設置終了後は、当日のリハーサルに入り、司会、来賓の挨拶、講演と進行し、皆の意見を取り入れ終了。

大会当日は、五條支部長東氏と、プラカードを持ち、橿原神宮駅での会場への案内、私たちの姿を見るたび、ご苦勞様と声をかけていただき、寒さも吹っ飛びました。大会の始まるころから、雨が降りかけ、駅から走り会場に戻りひと安心、会場の行事中は、雨が降り続け、役員、事務局では、傘の準備をしましたが、皆様の日頃の行いが良いので? 講演終了時には、雨が上がり、昼食後、午後の行事へと、出発していきました。後に残ったスタッフで、会場の後片づけ、予定より早く終了し役員、事務局を残し解散。初めてスタッフとして参加し、大きな行事を開催することは大変だなと思い帰路に。役員、事務局の皆様本当にお疲れ様!

(記・辻 元二)

Calendar

2013年1月

1(火)	●元旦	赤口
2(水)		先勝
3(木)		友引
4(金)		先負
5(土)		仏滅
6(日)		大安
7(月)	仕事始め(事務局)	赤口
8(火)		先勝
9(水)	正副会長会	友引
10(木)		先負
11(金)	新年名刺交換会(奈良ホテル)	仏滅
12(土)	近畿建築士会協議会青年部会	赤口
13(日)		先勝
14(月)	●成人の日	友引
15(火)		先負
16(水)		仏滅
17(木)		大安
18(金)		赤口
19(土)	奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会(都跡公民館)	先勝
20(日)		友引
21(月)		先負
22(火)	奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会(奈良県文化会館)	仏滅
23(水)	なら・すまいアップセンター住宅無料相談室	大安
24(木)		赤口
25(金)		先勝
26(土)		友引
27(日)		先負
28(月)		仏滅
29(火)		大安
30(水)		赤口
31(木)		先勝
2/1(金)		友引
2(土)	既存木造住宅の耐震診断・補強設計講習会(奈良市ならまちセンター)	先負
3(日)		仏滅

士 會 奈 良

通巻585号

平成25年1月1日(発行毎月1回1日発行)

発 行 所 社団法人 奈良県建築士会

〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館

電話 0742-30-3111 FAX 0742-33-4333

<http://nara-kenchikushikai.or.jp/>

info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 福 本 良 平

編 集 (社)奈良県建築士会 情報・広報委員会

印 刷 所 株式会社 明新社

財団法人なら建築住宅センターからのお知らせ

～財団法人なら建築住宅センターでは、省エネ関連等の以下の業務を新たに始めました～

低炭素建築物新築等計画に係る 技術的審査業務

『都市の低炭素化の促進に関する法律』が施行され、低炭素建築物新築等計画に係る認定制度が開始されました。

この制度は市街化区域内において、建築物の低炭素化に資する建築物を新築する場合に、所管行政庁へ認定の申請をすることができます。所管行政庁への認定申請に先立ち、当センターでは登録住宅性能評価機関として、低炭素建築物新築等計画に係る技術的審査及び適合証の交付業務を行います。

認定を受けると、税制優遇や住宅ローンの金利優遇などのメリットがあります。

住宅性能証明業務

平成24年度税制改正により、租税特別措置法が一部改正され、住宅取得等資金の贈与を受けた場合の贈与税の非課税措置が拡充・延長されました。

これに伴い、当センターでは、贈与税非課税限度額加算の確定申告に必要な住宅性能証明書の発行業務を行います。

住宅性能証明書の発行には、申請住宅の図面審査及び現場審査を行った上で、省エネ性又は耐震性のいずれかの基準を満たしていることの確認をします。

住宅事業建築主基準への 適合性評価業務

エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づき、当センターは登録建築物調査機関として住宅事業建築主基準(トップランナー基準)への適合性を評価します。

申請された住宅が上記基準に適合していると認められた場合は住宅事業建築主基準に係る適合証を交付します。

この適合証は省エネルギー性能が優れている戸建住宅として、「フラット35」S(金利Aプラン)にも利用できます。

登録建築物調査業務

平成20年のエネルギーの使用の合理化に関する法律の改正により、従来の2,000㎡以上の建築物に加えて、300㎡以上2,000㎡未満の中小規模の建築物についても省エネルギー措置の届出が必要となり、併せて建築物所有者は、省エネ措置の維持保全状況に関する内容を所管行政庁に報告(定期報告)することが義務付けられました。

当センターは、登録建築物調査機関として建築物調査を行い、適正な維持保全状況が確認できれば適合書を交付し、建築物所有者に代わって所管行政庁に報告します。

《申請窓口・お問い合わせ先》

財団法人なら建築住宅センター 業務推進課

TEL : 0742-27-6555

<http://www.zainara-kjc.net>